

令和 8 年度に重点的に取り組む項目・新たに取り組む項目（盛岡広域振興局）

現状・課題	令和 8 年度の具体的な事業内容
<p>《少子化対策》</p> <p>地域の実情に応じた少子化対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度、本庁の地域課題解決型少子化対策支援事業に葛巻町及び岩手町が参加し、その対策となる事業を検討した ○ 両町については、今後の事業化を支援するなど継続した伴走型支援を行っていくことが必要 ○ また、<u>国の地域評価ツールを活用したデータ分析、ロジックモデルの構築、インタビュー調査によるモデルの補強、事業アイデアの検討という一連の取組は、対策を検討するうえで効果的</u>であると思料 ○ 当管内で未実施の市町で、同スキームでの取組に意欲をみせる市町があることから、来年度も新規取組への伴走型支援を行うことも必要 <p>○ R7年度のワークショップで実施検討を行った事業</p> <p>＜葛巻町＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 住まいの確保応援事業 ② 若者が集まりやすい場を創出する若者交流事業 ③ 企業の魅力発信力向上事業 <p>＜岩手町＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① こどものための施設化事業 ② 子育てにやさしい店舗認証制度、子育てにやさしい店舗改修等費用補助金 ③ 子育て支援住宅等整備事業 ④ 子育て情報発信事業 ⑤ 誰もが安心・安全道路整備事業 	<p>《少子化対策》</p> <p>地域の実情に応じた少子化対策の推進</p> <p>【連携】 地経費 新規</p> <p>○ 地域課題分析型人口減少対策ワークショップの開催による管内の人口減少対策を支援</p> <p>葛巻町及び岩手町については、今年度検討した内容の事業化及び更なる展開に向けて、引き続き伴走型支援を実施</p> <p>また、人口減少率の高い、取組に意欲ある市町について、振興局事業で新規にワークショップを実施し対策の事業化を目指す</p> <p>引き続き伴走型支援を実施</p> <p>葛巻町及び岩手町</p> <p>新規にワークショップを実施</p> <p>人口減少率の高い、取組に意欲ある市町（2～3市町）</p> <p>↓</p> <p>インタビュー調査の際に「リトルもりおか」と連携首都圏の若者目線での意見を聴取する</p>

現状・課題	令和8年度の具体的な事業内容
<div data-bbox="73 201 952 251">多様な雇用の創出、労働環境と所得の向上</div> <div data-bbox="73 261 952 501"> <p>○ ジェンダーギャップの解消・仕事と子育ての両立に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ジェンダーギャップ解消のための意識啓発を進めるとともに、具体的に企業側の取組を後押しすることもあり、「選ばれる岩手」を推進するため、例えば、家事支援サービスの活用方向など、一歩進んだ「仕事と子育ての両立」支援方策を検討したい </div> <div data-bbox="73 511 952 554">【家事支援サービスに関する調査から】</div> <div data-bbox="73 564 952 639"> <p>○家事支援サービスの利用割合は1.8%だが、利用者の<u>9割が継続利用を希望</u></p> </div> <div data-bbox="73 649 952 761"> <p>○サービス利用者の「<u>追加出産意欲</u>」が向上（「<u>出産意欲が増加する</u>」が4割） 「家事支援サービス振興に向けた施策の方向性」（令和5年4月経済産業省）</p> </div> <div data-bbox="73 771 952 918"> <p>○サービス利用を支援している企業「<u>業務に集中できる時間が増え、キャリアと育児の両立ができている</u>という声を聞いている」 「家事支援サービス業の実態把握、活用推進に係る調査」（令和6年2月日本総合研究所）</p> </div> <div data-bbox="73 928 952 1089"> <p>○サービス利用を支援している企業「<u>人材の定着につながる。共働きや若い世代にはこの会社で働きたいという気持ちになってもらえるのではないか</u>」 「ライフデザインサービスシンポジウム」（令和7年3月経済産業省）</p> </div> <div data-bbox="73 1099 952 1149">【「リトルもりおか」との意見交換（10/25実施）から】</div> <div data-bbox="73 1159 952 1353"> <p>○ 所属企業では家事代行3万円/月、ベビーシッター5万円/月の補助がある。同経費は福利厚生費として損金算入され法人税の課税対象外となることから、経営者にとっては賃上げよりも対応しやすい。中小企業の経営者に控除の仕組みを理解してもらえば導入しやすいのではないか。</p> <p>○ 所属企業では同様に家事サービスの補助制度があるが活用していない。勤務体系が完全フレックス制でリモート勤務のため、子どもの送り迎えや家事をこなしながら仕事ができる。自由度が高い勤務体系なので家事と両立できている。</p> </div>	<div data-bbox="998 201 1870 251">多様な雇用の創出、労働環境と所得の向上</div> <div data-bbox="998 261 1870 468"> <p>○ ジェンダーギャップ解消・仕事と子育ての両立に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 盛岡広域圏における企業支援のあり方と具体策を検討するため、「<u>選ばれる岩手</u>」を推進する仕事と子育ての両立のあり方検討ワークショップや企業による両立支援の状況調査を実施 </div> <div data-bbox="1599 449 1835 492"> <div>地経費</div> <div>新規</div> </div> <div data-bbox="1062 499 1831 835"> <p>「選ばれる岩手」を推進する仕事と子育ての両立のあり方検討ワークショップのイメージ</p> <p>○ メンバー 県内の女性活躍に係る有識者、両立に理解のある県内企業、首都圏で両立支援を実践する企業（リトルもりおかメンバー等）などで構成</p> <p>○ 検討テーマ例 両立を図るために有効な方策は何か、家事支援サービスの実態や効果などを議論し、施策につなげていく</p> </div> <div data-bbox="1535 821 1632 885"> </div> <div data-bbox="1381 878 1806 1006"> <p>「リトルもりおか」と連携メンバーから首都圏企業の取組を聴取する</p> </div> <div data-bbox="998 1013 1870 1120"> <p>・ 広域インターンシップ参加企業を中心に、ジェンダーギャップ解消など魅力ある職場環境づくりに関する企業向けセミナーを実施</p> </div> <div data-bbox="1709 1085 1796 1135"> <div>広域</div> </div>

現状・課題

○ 子育て支援（ジェンダーギャップの解消関連）

核家族化や共働き世帯の増加により、子育て世帯の保護者が地域や社会から孤立する「孤育て」の状態になりやすく、父親の育児参加の不足や必要な支援情報にアクセスできない保護者が多くいることから、子育て世帯が不安や負担を抱えやすい状況

保護者の孤立を防ぎ、父親の育児参加を促進するとともに、支援が必要な世帯への情報提供と相談支援機関を周知する必要

【児童のいる世帯構造の25年前との比較（全国）】

調査年	児童のいる世帯	うち核家族世帯
1998年 (H10)	13,453 千世帯 (全世帯中30.2%)	9,420 千世帯 (児童世帯の70.0%)
2023年 (R5)	9,835 千世帯 (全世帯中の18.1%)	8,106 千世帯 (児童世帯の82.4%)

（出典：国民生活基礎調査）



令和8年度の具体的な事業内容

○ 子育て支援（ジェンダーギャップの解消関連）

地経費

新規

○ 子育て応援イベントの開催

- 趣旨：「孤育て」を防ぐため、講演会の開催や、父親の育児参加の機会をつくるなど、生み育てやすい環境整備を図る
- 対象：管内の未就学児（年中・年長）とその保護者等
- 内容（案）
「親子で体験！子育て応援フェスタ（仮称）」
 - 講演・情報提供
講演会：子育て講演
例）「ふたりで育てる」「地域のみんなで育てる」
 - お父さんの育児体験
父親料理教室、親子工作
 - お母さんのリフレッシュ体験・交流サロン
ハンドマッサージ、アロマワークショップ
 - 遊びの指導員による子どもの遊び体験
運動遊び、世界のおもちゃ、ミニゲームなど
 - みんなの子育て応援コーナー
行政や関係機関の紹介、個別の相談
 - 託児サービスの提供（弟・妹の預かり）



現状・課題

《社会減対策》

いわてとのつながりの維持・強化（地元定着、U・Iターン）

○ 広域インターンシップの枠組みを活かした地元定着の取組

【取組の背景・分析結果】

- ・ 盛岡広域圏インターンシップの取組を強化したいとの市町や企業のニーズあり
- ・ インターンシップが職場体験に留まっているケースも多く、インターンシップ先と就職先の相関が低い
- ・ これまでのインターンシップの受入れ方に課題も見えた一方で、効果的な取組を行っている企業や、地域が一体となった取組で成果を挙げている事例があったこと

これらを踏まえ、広域インターンシップ協議会の中に研究会を立ち上げ、分析結果の共有や展開方向の検討を行い、以下の3つの柱を推進

【取組の3つの柱】

- ① 高校生の広域インターンシップ参加企業向けの取組強化（企業向けセミナー・ワークショップなどの実施）
- ② 「地域と連携した好事例」の横展開（八幡平市商工会と平舘高校の取組の横展開）
- ③ 学校との連携（学校側との意識の共有）

令和8年度の具体的な事業内容

《社会減対策》

いわてとのつながりの維持・強化（地元定着、U・Iターン）

○ 広域インターンシップの枠組みを活かした地元定着の取組の強化

もりおか広域県内定着推進事業費

広域

インターンシップの枠組みを地元定着に活かしていくため、令和7年度に盛岡広域圏高校生インターンシップ協議会の中に立ち上げた研究会において、引き続き取組の3つの柱を推進

【取組の3つの柱】

高校との連携

- ・ インターンシップが職場体験に留まっているケースも多いことなどから、1・2年生時の段階からいかに地元企業を理解し、効果的な就職活動につなげていくか意見交換

企業向けの取組強化

- ・ 採用力の向上につなげるため、インターンシッププログラムの改善などを図る企業向けのセミナーを開催

「仕事と子育ての両立のあり方検討ワークショップ」の検討内容を同セミナーでも共有

企業向けセミナー/ワークショップ

市町や商工団体との連携

- ・ 地域と高校が連携している好事例の共有や高校のニーズを踏まえた展開を検討



現状・課題

地域の魅力や価値の発信による交流人口、関係人口の拡大

【関係人口】

- 海士町の「滞在人口」から移住につなげる取組などを参考としつつ、市町のニーズを踏まえ、地域の特徴を活かした「滞在型関係人口」の創出に向け取組を実施しているところ
 - 都内での移住フェアへの出展や移住サイトへの掲載、葛巻高校山村留学卒業生へのアプローチを行い、北いわてゾーン市町への参加を中心に募集し、現段階で21人から申込みがあり、募集ツール（イベント・サイト）ごとに一定程度申込の実績がでている
- ↓
- 今後は、受入れ先と緊密に連携し、申込者の希望に沿った柔軟なプログラムをいかに作っていくか工夫しつつ、特に若い世代をターゲットにつながりをも深め、移住等の展開を目指していく

令和8年度の具体的な事業内容

地域の魅力や価値の発信による交流人口、関係人口の拡大

○ 盛岡広域滞在型関係人口創出事業【継続】

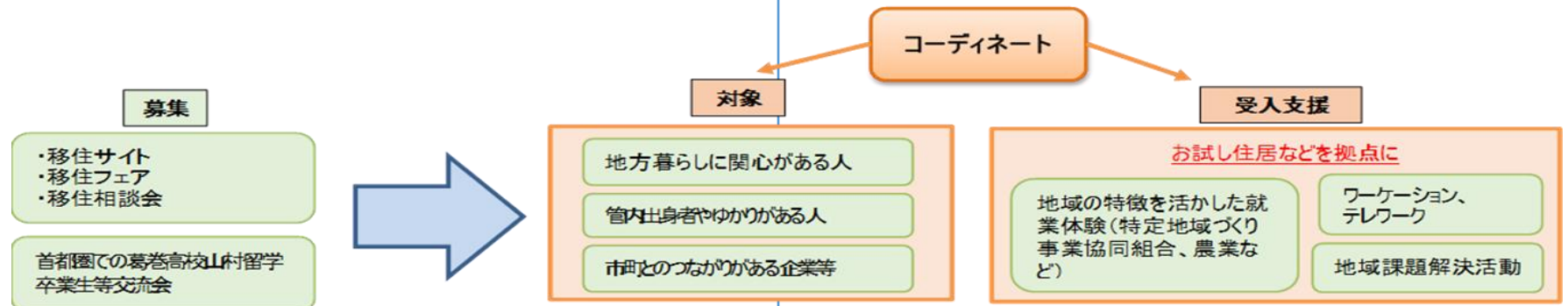
広域

- 管内市町のお試し居住施設を拠点とした滞在型の就業体験（特定地域づくり事業協同組合・農業などの就業体験、ワーケーション、地域課題解決活動など）を支援

○ R7実施状況

R7.10.15現在

イベント名(移住フェア等)	来場者数	うち20～40代		就業体験 申込者数	うち20～40代	
		男性	女性		男性	女性
6/1「テーマから探す！移住フェア」	52	15	22	5		1
7/5「くずまき山村留学生等交流会」	12	6	6	2		2
7/13「東北移住＆つながり大相談会」	10	3	4	3	1	1
(小計)	74	24	32	10	1	4
サイト等	興味あり数	うち20～40代		就業体験 申込者数	うち20～40代	
		男性	女性		男性	女性
SMOUT(移住サイト)	83	18	21	5	2	3
応募フォームに直接申込				6	1	3
(小計)	83	18	21	11	3	6
合計	157	42	53	21	4	10



1 人口減少対策

現状・課題

《少子化対策》

地域の実情に応じた少子化対策の推進

○ 結婚支援

県内の“いきいき岩手”結婚サポートセンター「i-サポ」の登録者数に減少傾向がみられることから、有配偶率の向上に向けて、「i-サポ」の更なる認知度の向上が必要

【「i-サポ」の年度別会員数（県内）の推移】

年度	会員数（人）			成婚数
	計	男性	女性	
令和5年度	1,034	698	336	26組
令和6年度	950	646	304	25組
令和7年度（※）	905	633	272	11組

（令和7年度は9月末現在）

※ 管内市町では、令和6年度末時点で会員数1人のところもあること

○ 子育て支援

安心して子どもを生み育てることができるよう、子育て支援サービスの充実のほか、地域全体で子育て家庭を支援する取組が必要

【子ども家庭センター設置市町村（管内 令和7年度）】

盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、岩手町、紫波町、矢巾町

【いわて子育てにやさしい企業等の認証数】

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標	179	218	257
実績	146	165	168

（令和7年度は9月末現在）

令和8年度の具体的な事業内容

《少子化対策》

地域の実情に応じた少子化対策の推進

○ 「i-サポ」の認知度及び登録者数向上に向けた取組の実施及び出会いや結婚を応援する社会的気運の醸成

- 管内市町と連携したPR（特に登録者数の少ない市町での企業等訪問、広報紙や市町のLINEによる発信強化など）



○ こども家庭センターの設置等

未設置町に対する設置に向けた支援、子育て担当者会議等による相談支援機能の充実支援

○ いわて子育てにやさしい企業等の認証

- 食品衛生責任者実務講習会等において事業者へ周知（毎月1回）
- 社会保険労務士会等へ協力要請（随時）

○ 子どもの学習・生活支援事業

- 令和8年度は、学習会実施回数合計190回以上、380時間以上の実施を予定（参考：令和6年度は登録者数69名、学習会実施回数合計190回、380時間実施）



現状・課題

《社会減対策》

いわてとのつながりの維持・強化（地元定着、U・Iターン）

○ 新規学卒者の県内就職の状況

【大学生】

- 理工・情報系学部 of 大学生の県内就職率が年々縮小しており、令和7年3月卒業生の8割が県外に就職している

【管内大学理工・情報系学部の就職率】

	R4.3卒	R5.3卒	R6.3卒	R7.3卒
県内	26.9%	26.2%	23.9%	19.9%
県外	73.1%	73.8%	76.1%	80.1%

（出典：盛岡広域振興局調べ）

【高校生】

- 就職希望の高校生が地元企業を知る機会は限られており、地元企業を十分に把握しないまま、3年生の9月には就職応募先を決めている
- 進学校の生徒も、大学進学カリキュラムが中心で県内企業を知る機会が少ない

【新規高卒者の県内就職率】

	R4.3卒	R5.3卒	R6.3卒	R7.3卒
管内高卒者	69.3%	69.6%	68.5%	63.6%
全県高卒者	74.1%	73.6%	71.5%	70.8%

（出典：岩手労働局 新規学校卒業者の職業紹介状況 各年6月末日現在）



若者の地元定着を進めるため、県内企業や県内で働く人を知ってもらう取組を継続する必要がある

令和8年度の具体的な事業内容

《社会減対策》

いわてとのつながりの維持・強化（地元定着、U・Iターン）

○ 学生等を対象とした企業見学、体験学習の実施

【産業全般】

【大学生】

- 就職活動が始まる前の早期から、学生に対する県内IT企業の認知度向上を図るため、県内IT企業の特徴や業務内容を周知する「マッチングガイダンス」をオンデマンド配信により実施
- IT人材の育成を図る取組として、産学官金が連携し学生デジタルアイデアコンテストを開催

【高校生】

地元企業の魅力を伝えるため、企業ガイダンスや企業見学を実施

【保護者、教員】

高校生の就職に影響力を持つ保護者向けに、企業見学や県内企業情報レターによる情報提供を実施



岩手もりおか学生デジタルアイデアコンテスト2024表彰式



高校生向け企業ガイダンス



保護者・教員向け企業見学会

現状・課題

○ 新規就農者の状況

[現状]

- ・ 新規就農者は直近5か年の平均で80人/年
- ・ 盛岡地方の農業従事者の減少に対応するため、新規就農者の確保に向け、農業の魅力や就農支援情報等を発信し、農業への興味・関心を高める取組が必要

[課題]

- ・ 就農希望者に就農地として選択してもらうため、効果的な情報発信や支援する関係機関の就農相談スキルの向上が必要

新規就農者数の推移 (単位: 人)

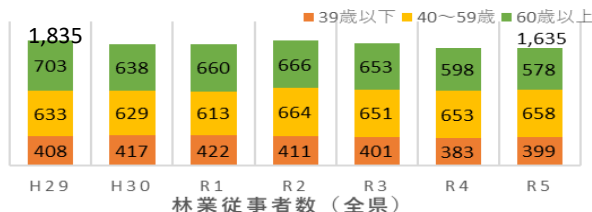
	R2	R3	R4	R5	R6	平均	AP目標値※
管内	74	68	88	89	83	80	79
全県	312	277	291	286	288	—	—

(盛岡地方農業農村振興協議会調べ)

※ 第2期アクションプランから目標値を79人に設定 (R4年度までの目標値は67人)

○ 林業従事者の状況

- ・ 林業就業者の60歳以上の割合は約4割を占めており、若手人材の確保・育成が必要
- 〔参考〕令和5年度の年代別割合: 盛岡局管内
39歳以下: 24.4%、40～59歳: 40.2%、60歳以上: 35.4%
- ・ 厳しい作業条件もあって発生率の高い、労働災害や死亡事故を防止するため、安全対策の徹底が必要
- ・ 将来的な担い手確保のため、小中学生や高校生に対し、木育や体験学習等、林業の魅力や木材産業の可能性について理解を深める機会を提供し、林業を就業先の一つとして認識させることが必要



令和8年度の具体的な事業内容

【農業】

① もりおか地方農業人材確保事業【地域経営推進費】

- ・ 農業総合情報サイトの中に、管内各市町の就農事例を一覧で紹介する「もりおかで就農(仮)」トップページを作成
- ・ 県内外で開催される就農相談会への盛岡地方ブースの出展と就農相談対応
- ・ 市町担当者等を対象に、就農相談会で就農希望者の目を惹くブースの設営や興味を引き出す相談対応のコツを学ぶ研修会を開催



8市町の支援情報記事のまとめページイメージ

② 教育機関と連携した取組

- ・ 中学生を対象とした、地域農業者による盛岡地方の農業への理解を深める出前授業の実施
- ・ 県立農業大学校学生や盛岡農業高校生徒を対象とした地域農業者との懇談会の開催

一部新規

【林業】

- ① 盛岡地区安全伐倒競技会 (一般の部・高校生の部 (盛岡農業高校2年生対象)) 開催による若手林業技術者の作業技術向上、安全作業に対する意識醸成
- ② 林福連携取組事業体と福祉施設利用者による、試験的な苗木生産の取組を支援
- ③ 林業事業体の仕事紹介、セーザイゲームによる製材業への理解醸成 (対象: 盛岡農業高校)
- ④ セーザイゲームを活用した体験学習、県民の森を活用した木育体験の実施 (対象: 小中学生等)



一般の部
盛岡地区安全伐倒競技会



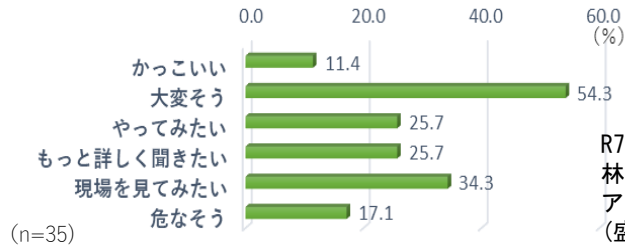
高校生の部



林福連携
(宮崎県 苗木生産)

現状・課題

林業のお仕事紹介を聞いてどう思いましたか（複数回答）



R7年度
林業お仕事勉強会
アンケート結果より
(盛岡農業高校1,2年生)

令和8年度の具体的な事業内容



林業お仕事勉強会（盛岡農業高校、矢巾町立德田小学校）

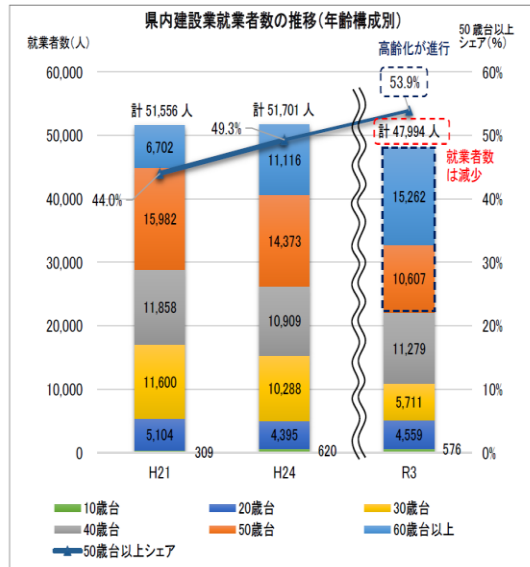
《小学校アンケート結果より》

- ・木が育つのに50年もかかるのを知ってびっくりした。
- ・家でも家族とセーザイゲームをしたい。
- ・木を仕入れて売るという仕組みを学びました。

○ 建設業従事者の状況

県内建設業の就業者数は徐々に減少しているほか、50歳台以上の占める割合が53.9%（令和3年度時点）と高齢化が進行しており、将来の担い手の確保・育成が必要

県内の建設企業においても担い手確保に取り組んでいるが、高校生の卒業後の県内建設企業への就職率が低いいため、県内建設企業への就職支援が必要



(出典 経済センサス活動調査、岩手県建設業構造実態調査)

※年齢構成ごとの人数は、経済センサス活動調査の就業者数に岩手県建設業構造実態調査による年齢構成割合をかけて推計値として算出。

出展：岩手建設業振興中期
プラン2023（令和5年3月）

【建設業】

1 中学生、保護者及び教員を対象とした建設業体験学習

将来を担う中学生やその保護者、教員を対象に、建設工事現場の見学、建設機械操作体験、測量体験、ドローン操作体験、DX技術体験等を開催し、建設業の魅力を発信し関心を喚起



建設機械操作体験



3次元設計体験

2 高校生を対象とした地元建設企業との交流

(1) 盛岡工業高校生徒を対象とした出前授業の実施

管内の建設企業の業務内容を紹介し、生徒の希望業種の選定や管内企業への就職を支援（1年生を対象）

(2) 盛岡工業高校生徒と女性技術者との意見交換会の実施

建設企業への就職後のワーク・ライフ・バランス等について、「けんせつ小町部会」と意見交換会を開催

(3) 管内高校への建設業のPR

工業高校以外の高校へ建設業の魅力発信と管内企業を紹介

3 大学生を対象とした出前授業

岩手大学理工学部の学生を対象に、管内建設企業、建設コンサルタント、県技術系職員を講師として派遣し、各業種の業務内容を紹介し、建設業の魅力発信と管内企業への関心を喚起

現状・課題

○ 医療、介護、福祉の従事者の状況

[介護職員の必要数（県全体）] (単位：人)

年度	2019年	2023年	2025年	2040年
必要数	23,833	25,366	26,831	27,588
現状推移シナリオ職員数	-	24,166	24,126	21,365

[現状]

医療・介護分野への進学・就職の動機付けを行うため、中学生を対象に看護師や介護福祉士などが講師になり出前講座を開催。

<開催実績> R3：5校、R4：5校、R5：3校、R6：4校、R7：4校（予定）

[課題]

- 医療と福祉の人材確保の取組が急務
- 介護職はきつい・給料が安いというイメージの払拭
- 職業について興味関心を持ってもらえる新たな工夫が必要

地域の魅力や価値の発信による交流人口、関係人口の拡大

【関係人口】

○ 首都圏での本県ゆかりの若者との関係構築

盛岡広域出身の若者で構成される「リトルもりおか」と人口減少対策に係る意見交換を実施するなど関係を構築

- ・ 県内で活動する地域おこし協力隊の定着率は向上しておらず、特に県央圏域は約60%で他圏域よりも低い。

区分	令和3年	令和4年	令和5年
県央圏域	61.2	55.1	56.8
県全体	68.5	64.3	61.9

- ・ 地域おこし協力隊の活動分野ごとに意見交換を行い、ネットワークをつくるため交流会を開催（10/17、11/7）。
- ・ 定着率の向上と地域課題解決に向けて、交流をさらに深化する必要がある。

令和8年度の具体的な事業内容

【医療・介護】

地経費

一部新規

出前講座において、従来の講話のほか、最新の介護テクノロジーの見学体験を行う。生徒に興味を持ってもらえそうな、見守りセンサー、パワーアシストスーツ、癒し系介護ロボットなどの展示コーナーを設け、介護や医療に対して漠然と持っている辛い・大変といったイメージを払拭させ、興味関心を持たせる



見守りセンサー（主に施設で使用されており、介護スタッフの負担軽減、利用者の安全性向上、異常事態の早期発見に役立っている）



らぼっと（まるで生きているかのように寄り添う家族型ロボット。利用者や介護職員の癒しとなる存在）



パワーアシストスーツ

地域の魅力や価値の発信による交流人口、関係人口の拡大

○ 人口減少対策ワークショップへの参画 【再掲】

地経費

インタビュー調査の際に首都圏の若者目線での意見を聴取

○ 仕事と子育ての両立に向けたワークショップへの参画【再掲】

「仕事と子育ての両立のあり方検討ワークショップ」に参画してもらい、首都圏企業の取組の共有や助言をいただく

○ 地域おこし協力隊（OBOG含む）等のネットワークづくり支援【継続】

地経費

- ・ テーマ別（地域コミュニティ、観光、文化スポーツ、産業振興等）での意見交換や、協力隊員、協力隊OB OG、新規就農者等の移住者同士の交流促進等に取り組む

現状・課題

【交流人口】

- ・ N Y T掲載の影響もあり、観光入込客数はコロナ禍前に回復しつつあることから、その効果を広域に波及させることが重要
【観光入込客数（延べ人数）】（単位：千人回）

区分	R元年	R4年	R5年	R6年	R6年/R元年
盛岡市	3,995	1,383	3,227	3,587	89.8%
県央地域	9,681	5,417	7,606	8,181	84.5%

（出典：岩手県観光統計）

- ・ コロナ禍以降、「いわて酒ノ宴inもりおか」の開催（R5～R7）により、酒造会社が集積する盛岡広域の魅力発信や認知度向上を図ってきたが、民間主体の取組も活発になってきたことから、今後は、民間活力を生かした持続的な取組への移行が必要



いわて酒ノ宴2025inもりおか

- ・ 広域周遊観光や相互交流（マイクロツーリズム）の促進を図るとともに、樹海ラインの一部通行止め（R6.7月～）や岩手山入山規制（R6.10月～）の影響を受けている八幡平市松尾地区への誘客を図るため、秋田県際地域との連携による魅力発信が必要

【八幡平市松尾地区の観光入込客数（延べ人数）】（単位：人回）

区分	令和5年	令和6年	R6/R5
松川温泉郷	22,421	19,568	87.3%

（出典：岩手県観光統計）

- ・ 教育旅行客の入込状況は、校種・発地ともコロナ禍前に戻り、主要市場である北海道や首都圏等への教育旅行の学びのニーズに対応した情報発信が必要

【教育旅行客入込数（延べ）】（単位：校・人回）

区分	令和元年		令和4年		令和5年		令和6年	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
県央	1,603	100,491	2,132	121,532	1,809	101,652	1,502	86,275
県内	3,243	213,785	4,742	290,611	3,739	230,057	3,279	202,348

（出典：岩手県観光統計）

令和8年度の具体的な事業内容

○ 酒造り文化等の地域資源を生かした周遊型観光の推進

盛岡広域周遊・滞在型観光促進事業費 **地経費**

酒造会社が集積する盛岡広域の観光コンテンツの確立に向けて、民間主体のイベント等を活用した周遊型観光の更なる促進を図る

《参考》盛岡広域で開催されているお酒をテーマとした民間主体の主なイベント

- ・ いわて酒蔵フェスタinもりおか
- ・ 岩手クラフトビールフェスinMorioka
- ・ いわてワインガーデン

○ 秋田県際連携

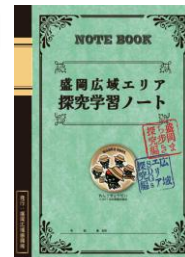
もりおか広域観光・工芸等産業支援振興事業費 **広域**

秋田県鹿角地域振興局と連携した観光キャンペーン（デジタルスタンプラリー）の実施

○ 教育旅行誘致

盛岡広域周遊・滞在型観光促進事業費 **地経費**

盛岡市内自主研修のニーズに合わせた「盛岡広域エリア探究学習ノート」を活用した学びの提案による教育旅行の誘客促進



現状・課題

多様な雇用の創出、労働環境と所得の向上

【D X技術の推進等による農業分野の振興】

○ 園芸のD Xの推進

[現状]

- ・ 園芸経営体の生産性・収益性を向上し、一層の産地力強化に向けたスマート農業機械等の導入が求められている
- ・ りんどう生産については、担い手の減少や高齢化により、労働時間の多くを占める選別調製作業の負担が大きくなっている
- ・ 切花りんどう自動選別機の導入に向け、対応品種の拡大や選別精度向上の機能強化を進めている

J A新しいわて八幡平花卉生産部会りんどう生産者数及びりんどう栽培面積の推移 (R2～R6) (単位: 人、ha)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
生産者数	151	148	146	141	126	121
栽培面積	105.6	102.3	98.5	92.3	87.1	80.4

(八幡平農業改良普及センター調べ)

[課題]

- ・ 自動選別機の導入に向け、選別精度や安全性等の向上が必要

市町村との一層の連携の強化

- ・ 新たな少子化対策にチャレンジする意欲のある市町が、国の少子化対策地域評価ツールを活用し、地域の実情に合わせた施策を展開できるよう伴走型支援が必要
- ・ 人口減少対策は、市町村と更に連携を密にし、地域の特性を踏まえながら対策を講じていくことが必要
- ・ 特に、人口減少率の高い小規模町を重点的に支援していくことが重要

令和8年度の具体的な事業内容

多様な雇用の創出、労働環境と所得の向上

○ 園芸のD Xの推進

① 切花りんどう産地担い手支援事業【地域経営推進費】

地経費

- ・ 自動選別機の性能向上（安全性の強化や青色品種以外の選別精度の向上）
- ・ 自動選別機の省力効果の検証及び検討会の開催



自動選別機の操作研修会

市町村との一層の連携の強化

- 1 地域課題分析型人口減少対策ワークショップの開催 【再掲】
 - ・ 今年度少子化対策WS参加町への伴走型支援を継続
 - ・ 加えて、2～3市町で新規にワークショップを実施
- 2 地域経営推進費 市町村連携枠及び地域経営推進費小規模自治体支援事業を活用し、市町と連携した人口減少対策を実施
 - くずまき山村留学卒業生等との交流の場の構築支援【継続】
 - ・ 葛巻町と連携し、葛巻高校山村留学卒業生等の交流会を首都圏で開催
- 3 管内8市町人口減少対策担当課長会議等による情報提供・意見交換を定期的実施し、地域特性に応じた対策を検討し、引き続き事業化を支援

2 地域振興プラン

1 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域

2 豊かな環境が保全され、自然の恵みを将来にわたって享受できる地域社会をつくります（環境保全等、脱炭素）

現状・課題

(1) 多様で豊かな環境の保全・保護の推進

- ツキノワグマの市街地出没・人身被害が増加し、人身被害防止のための普及啓発や担い手となる狩猟者確保が必要

	人身被害（4-3月）（管内）（県全体）	出没件数（4-3月）（管内）（県全体）
R5	15件17名	46件49名
R6	0件0名	10件10名
R7	10件11名	21件22名
		精査中
		※9/17時点

※R7は4月～9月の件数。

(2) 動物愛護思想の普及と適正飼養の推進

- 多頭飼育等に関する相談・苦情が増加しており、動物の適正飼養の普及啓発や社会福祉関係部局等関係機関との連携が必要

管内犬猫相談苦情	R5	R6	R7（9月末）
	102件（15件）	147件（27件）	51件（13件）



動物愛護フェスティバル

令和8年度の具体的な事業内容

- ・ 「クマ鈴等着用定着促進事業」及びシリアスボードゲーム等を活用した小学校等への出前講座の継続実施
（全国的に多発している生活圏への出没及び人身被害に関する報道や各所からの普及啓発により、一般県民にツキノワグマの生態等に関する理解が広まっていることから、「ツキノワグマ勉強会」及び「出没防止支援事業」は廃止）
- ・ 鳥獣保護管理法改正に伴う出没時の緊急対応や捕獲・放獣に関する正しい知識と技術を有した技術捕獲者の育成・確保に対する事業の実施は情報収集を行いつつ検討

○ 動物愛護管理の推進に向けた多機関連携事業

- ・ 社会福祉部署と動物愛護関係機関連携会議開催
- ・ 「社会福祉と動物愛護を考える研修会」開催
- ・ 譲渡促進と緊急対応時への措置（動物の疾病検査キット、ワクチン及び医薬品等の配備）

地経費

動物愛護団体との連携による譲渡会



(3) 再生可能エネルギーの導入促進



- 大型製材工場、近隣圏域の合板工場や木質バイオマス発電所等の大口需要者に対し、事業者が行う地域材を安定供給する体制整備に向けた支援が必要

- ① 木質バイオマスを供給する事業者に対して、松くい虫被害等のチップ化による燃料材としての活用を促進
- ② 未利用間伐材等を有効活用するため、要望があった林業事業体に対しチップパー機の導入を支援

木材産業国際競争力強化対策事業
R6導入 移動式チップパー



4 過去の教訓を踏まえた防災対策を進めます

現状・課題	令和8年度の具体的な事業内容
<p>(1) 河川改修や砂防施設による防災安全度の向上</p> <p>○ 豪雨に伴う災害が激甚化、頻発化しており、洪水・土砂災害による被害を軽減するため早期の防災施設整備が必要</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <p>松川（盛岡市）</p> <p>外水沢（砂防/八幡平市）</p> </div>	<p>1 河川改修の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 木賊川（盛岡市・滝沢市）：遊水地締切堤地盤改良工事を推進 (2) 太田川（紫波町・矢巾町）：用地取得事務を推進 (3) 北上川・松川（盛岡市）：松川工区の築堤・護岸工事を推進 (4) 北上川（岩手町）：遊水地整備工事を推進 (5) 馬淵川（葛巻町）：築堤・護岸工事の推進【R8完成予定】 (6) 安比川（八幡平市）：護岸工事の推進 <p>2 砂防施設や急傾斜地崩壊対策施設の整備の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 高森の沢（砂防/滝沢市）：工事用道路工事を推進 (2) 白山の沢（砂防/滝沢市）：各種調査を推進 (3) 外水沢（砂防/八幡平市）：砂防堰堤本体工事を推進 (4) スキー場南沢（砂防/八幡平市）：砂防堰堤本体工事を推進 (5) 屋敷沢（砂防/八幡平市）：用地取得等を推進 (6) 民部田の沢（砂防/岩手町）：用地取得等を推進 (7) 小平沢（砂防/葛巻町）：各種調査を推進
<p>(2) 地震に強い社会資本の整備</p> <p>○ 地震災害発生後も確実な通行経路となる緊急輸送道路における橋梁の耐震化が必要</p>	<p>3 橋梁耐震化の整備推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 夕顔瀬橋（盛岡横手線/盛岡市）：耐震補強工事の推進【R8完成予定】
<p>(3) 災害関連情報の充実強化による減災対策</p> <p>○ 水位周知河川の指定による洪水時の河川水位の周知や、洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域等の指定による、市町村の警戒避難体制の整備の支援が必要</p>  <p>一級河川米内川の洪水被害の状況（令和6年8月）</p>	<p>4 地元自治体との情報共有及び連携強化の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 水位周知河川におけるホットラインの運用 (2) 木賊川（盛岡市・滝沢市）の水位周知河川指定に向けた検討を開始 (3) 新たに確認された土砂災害危険個所の基礎調査及び調査完了箇所の土砂災害警戒区域等の指定を推進

5 安心・快適な都市環境・生活環境をつくります

現状・課題

(1) 高次都市機能の充実

- 交通混雑を緩和し、市街地の円滑な交通の確保が必要



杜の大橋施工状況（盛岡市）

(2) 安全・安心な歩行空間及び自転車通行空間の確保

- 児童生徒の安全な通学のため歩道整備が必要



施工前（古館停車場線）



施工後（古館停車場線）

- 自転車通行帯の明示により歩行空間と分離し、安全・安心な歩行空間及び自転車通行空間の確保が必要



自転車通行帯の整備状況（盛岡市）

令和8年度の具体的な事業内容

1 交通混雑が緩和される街路の整備推進

- (1) 盛岡駅本宮線（杜の大橋/盛岡市）：
融雪設備、道路改良工事を推進【R 8 完成予定】

2 歩道整備や歩行空間確保の推進

- (1) 上米内湯沢線（浅岸/盛岡市）：歩道整備工事を推進【R 8 完成予定】
- (2) 渋民田頭線（五百森/八幡平市）：歩道整備工事を推進

3 自転車通行帯の明示の推進



- (1) 氏子橋夕顔瀬線（夕顔瀬町/盛岡市）：
自転車通行帯の整備を推進

Ⅱ ＩＴ産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力ある産業が展開している地域

6 産官学金連携などによるＩＴ産業の育成やものづくり産業の振興に取り組みます

現状・課題	令和８年度の具体的な事業内容										
<div>○ ＩＴ・ものづくり産業の幅広い産業分野への参入促進 多様な産業における業務改善や生産性向上を促進するため、 ＩＴ関連企業と県内事業者との連携を強化し、ＩＴ関連企業の 販路を拡大するとともに、地域産業のＤＸを推進することが必要</div> <div>【県内情報サービス産業の売上高】（単位：億円）</div> <table><tr><th>R元年</th><th>R２年</th><th>R３年</th><th>R４年</th><th>R５年</th></tr><tr><td>378</td><td>418</td><td>428</td><td>480</td><td>504</td></tr></table> <div>(出典：経済産業省 経済構造実態調査、経済センサス活動調査)</div>	R元年	R２年	R３年	R４年	R５年	378	418	428	480	504	<div>① みらいもりおかＤＸ推進事業費 広域<ul style="list-style-type: none">・ 商工指導団体等と連携し、ＩＴ連携コーディネーターによる小規模事業者等のデジタル化を支援・ 管内ＩＴ企業と県南圏域のものづくり企業とのビジネスマッチングに向けた交流会を開催 (県南広域振興局との連携) 【連携】・ 事業者のＤＸを推進するため、管内のＩＴ人材(スパルタキャンプ卒業生等)と地場企業のマッチングイベントを開催</div> <div>② 盛岡広域地域未来産業育成事業費 地経費 展示会等出展経費の補助により、ＩＴ・ヘルスケア関連企業等の取引拡大を促進</div>
R元年	R２年	R３年	R４年	R５年							
378	418	428	480	504							

7 観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します（観光産業、食産業・工芸品産業）

現状・課題	令和８年度の具体的な事業内容
<p>(1) 食品・工芸品製造事業者の事業再構築と人材の育成</p> <p>○ 小規模事業者は、販路拡大のためのホームページやＥＣサイトの構築が自力では困難なケースが多いため支援が必要</p>	<p>○ ＩＴ連携コーディネーターによる支援 地経費 商工指導団体等と連携し、ＩＴ連携コーディネーターによる小規模事業者等のデジタル化を支援（再掲）</p>
<p>(2) 商品の高付加価値化及び販路拡大の促進</p> <p>○ 原材料の価格高騰や人手不足等が、事業者の企業経営に悪影響を及ぼしていることから、販路や売上の拡大につなげるため、販売機会等の創出に向けた支援が必要</p>	<p>○ 工芸品販路拡大支援 広域 もりおか広域観光・工芸等産業支援振興事業費 営業人材が乏しい工芸品の小規模事業者を対象に県内バイヤーを中心とした工房見学会を実施し、バイヤーとの関係強化と販路拡大を促進</p> <div data-bbox="1680 935 1874 1120">  <p>工房見学会</p> </div>
<p>(3) 観光等と連携した食産業・工芸品産業の振興</p> <p>○ 管内市町の中でも、人口減少率の高い北いわて３市町（八幡平市、岩手町、葛巻町）を中心に観光・物産のＰＲの場が必要</p>	<p>○ 首都圏における北いわて３市町の観光・物産フェア もりおか広域食産業支援事業費 地経費 大宮駅近くで北いわて３市町に特化した観光・物産フェアを開催し、交流人口の拡大と地域製品の販路拡大を支援</p> <div data-bbox="1458 1192 1874 1363">  <p>いわて北緯40度観光・物産フェア</p> </div>

2 地域振興プラン

8 米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と活力のある農村づくりを進めます

現状・課題

(1) 生産性・市場性の高い安全・安心な産地づくり

① 「銀河のしずく」、「白銀のひかり」の消費拡大に向けた取組推進

- 「銀河のしずく」の栽培面積は県内の7割を占めており、今後も面積拡大の見込み
- 「白銀のひかり」は、全県の作付面積約100haのうち66haを八幡平地域が占めており、今後の作付拡大に向けて、管内においても広く周知する効果的な活動が必要

「銀河のしずく」作付面積の推移 (単位: ha)

区分	R2	R3	R4	R5	R6
県央	1,164	1,136	1,578	3,354	4,249
全県	1,652	1,800	2,500	4,650	5,800

② 園芸産地力の向上

- 園芸産地力の向上に向け、産地の核となる園芸経営体の育成を進める必要がある
- 近年の収穫量低減の要因となっている難防除害虫や夏季高温への対応等が必要
- R7地経費による害虫防除実証において、外気導入装置の稼働によりトマト樹体温度を低下させる効果を確認

③ 畜産の収益性向上

- 近年の温暖化により従来から栽培されている寒冷地型牧草の夏枯れが多発、粗飼料増産に向けた取組が必要
- R7地経費による牧草の二毛作体系実証では、暖地型牧草の生産性は寒地型牧草の年間収量の約1.2倍の乾物収量を確保
- 夏季の猛暑により、暑さに弱い搾乳牛の乳量が低下していることから、牛舎の暑熱対策が必要

経産牛1頭当たりの年間生乳生産量の推移 (R4～R6) (単位: t)

区分	R4	R5	R6
経産牛1頭当たり年間生乳生産量	9,316	9,252	9,288

(盛岡広域振興局農政部調べ)

令和8年度の具体的な事業内容

① 「銀河のしずく」、「白銀のひかり」の消費拡大に向けた取組推進

県央のお米魅力向上プロジェクト事業【地域経営推進費】

地経費

- 親子を対象とした食育教室(おにぎり教室)の開催
- 「いわての美味しいお米提供店」における「白銀のひかり」等の県オリジナル品種利用店の登録推進による消費拡大PRの実施

保育園でのおにぎり教室



② 園芸産地力の向上

ア 環境制御技術の活用による収量向上及び安定生産支援

- 小型光合成促進機やミスト等の技術導入効果の検証
- 温湿度計データ等を活用した環境モニタリング導入研修会の開催

イ 夏期高温下における施設園芸作物の収量確保に向けた害虫防除・高温対策技術の有用性検証と普及事業【地域経営推進費】

- 施設園芸における難防除害虫に対応した防虫ネットや微生物農薬等の活用による総合防除技術の検証
- 外気導入等による高温対策技術の有用性の検証と経営評価

地経費



害虫の侵入や温度上昇を抑制するために防虫ネット、外気導入ファンを設置したハウス



天井に設置したダクトを通じて外気を取り込み温度上昇を抑制

③ 畜産の収益性向上 暑熱対策総合実践事業【地域経営推進費】

地経費

- 夏期高温下における安定的な粗飼料生産に向け、暖地型牧草や二毛作体系による粗飼料増産の検証
- 猛暑期の搾乳量確保に向け、温度低減技術導入による牛舎内環境の改善効果を検証



ドライフォグシステム



ドローンによる牛舎屋根への遮熱材の塗布

一部新規

9 森林資源の循環利用促進ともうかる林業・木材産業の構築を進めます

現状・課題

(1) 森林資源の循環利用及び担い手の育成・確保

- 計画的な主伐、造林、間伐を進めるため、地域の森林経営管理の主体となる意欲と能力ある林業経営体及び森林施業の団地化・集約化の促進を担う森林施業プランナーの活動支援が必要



スマート林業の取組（ドローンレーザー等を活用した画像解析）

- 昭和55年度以降被害のなかった葛巻町において、R7.9月に松くい虫被害が確認されたことから、被害木の駆除及び周辺地域の監視の強化と併せて、未被害地域への被害拡大防止が必要

(2) 地域材の利用促進

- 間伐・再造林等の森林整備や地域材の利用を促進する森林の循環利用の推進が必要
- 管内の木材需要の拡大、住宅リフォームや店舗等での需要拡大を図るため、更なる地域材のPRが必要



滝沢市立滝沢中央小学校



セツ森ベンチ

(3) 原木しいたけ産地の再生

- 放射性物質の影響により原木価格の高騰が続いており、収益の低下から生産者の経営環境が悪化しているため、原木の安定確保が必要
- 生産者の減少により産地や生産基盤の弱体化が懸念されるため、担い手の確保・育成、収益性改善のための販促活動が必要



盛岡市農業まつり



いわて銀河プラザ販売会



令和8年度の具体的な事業内容

○ 森林経営計画作成を担う人材の育成

- ① 意欲と能力のある林業経営体と森林施業プランナーの育成
- ② 森林GISや森林クラウドなど情報通信技術（ICT）等の先端技術を活用したスマート林業の推進
- ③ 林業事業体が行う森林施業の集約化、路網の整備、林業の低コスト化の取組や高性能林業機械の導入を支援

○ 松くい虫・ナラ枯れ被害の防止対策の推進

- ① 市町との連携を密にし、被害木の早期発見、被害木の材片調査等により、監視体制を強化
- ② 被害木の駆除の徹底や樹種転換、被害木の利用促進等、健全な森林づくりを促進

- ① 民間建築物での県産木材利用拡大促進のため、大型施設など非住宅を設計・施工する会社等へ県産木材をPR
- ② 「次世代の木材産業の担い手」の育成のため、盛岡農業高校及び産技短建築科を対象に、川上から川下（伐採現場→素材市場→製材所→木造大型建築物）の見学を行い、林業や木材産業等について理解を深める



伐採現場見学



製材所見学

地経費

○ 生産支援・原木支援

- ① しいたけや原木等の放射性物質検査の実施
- ② 新たな原木ルート確保を図るため、木炭用の原木を生産している伐採業者の現場を、しいたけ生産者と視察し、しいたけ用原木の生産条件、供給条件などについて協議

○ 販路拡大に向けた支援

- ① 経営分析調査結果に基づき収益改善に向けた指導を実施
経営分析シートを活用した原木しいたけ栽培への新規参入促進
- ② 原木しいたけの認知度向上のため販売促進活動を実施
- ③ 原木しいたけ（瞬間冷凍）の有利取引が見込める輸出について試験的に実施

地経費

10 地域産業の特性に応じた産業人材の確保・育成とやりがいを持って働くことができる労働環境の整備を進めます

現状・課題	令和8年度の具体的な事業内容
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管内新規高卒者の1年目離職率は、直近の令和6年4月入社では12.4%と低めだったが、近年は15～16%台前後で推移しており、定着支援に向けた継続的な取組が必要 企業におけるテレワーク環境の整備、育児休業の取得促進や女性活躍の推進等、多様な働き方が普及してきていることから具体的な好事例の共有など企業間の情報共有の場が必要 	<p>(1) 若年者等の就業支援と地域産業を支える人材の確保</p> <ol style="list-style-type: none"> 就業支援員及び県内就業・キャリア教育コーディネーターによる就職後の定着支援のための企業訪問等を実施 地元定着を進めるため、高校生や保護者を対象に地元企業や人を知る機会を継続的に提供 <p>(2) 企業における雇用・労働環境整備の促進</p> <p>高校の企業ガイダンス時を活用し、他事業所のPRを見学したり、情報交換をする場を設定</p>


広域

一部新規

11 産業経済活動を支える交通ネットワークを整えます

現状・課題	令和8年度の具体的な事業内容
<p>(1) 物流・交流ネットワークの整備</p> <p>○ 物流・交流の基盤となる道路の整備推進が必要</p> <div data-bbox="94 855 461 1128" data-label="Image"> </div> <p>国道282号佐比内トンネル（工事中）</p> <div data-bbox="500 838 925 1123" data-label="Image"> </div> <p>（仮称）久慈内陸道路</p>	<p>1 産業経済活動を支える物流ネットワークの構築</p> <p>(1) 国道4号盛岡南道路の整備促進に向けた国への働きかけ</p> <p>2 県央圏域内外との交流を促進する広域ネットワークの整備</p> <ol style="list-style-type: none"> 盛岡環状線（滝向/滝沢市）：用地補償等を推進 国道455号（軽町/盛岡市）：用地測量を推進 佐比内彦部線（横町/紫波町）：詳細設計、用地測量を推進 国道282号（佐比内/八幡平市）：トンネル本体、舗装及び照明工事の推進【R8完成予定】 構想路線「（仮称）久慈内陸道路」：（仮称）小屋瀬道路の検討を推進

4 その他特記事項（市町村要望において特に話題となった事項等）

現状と課題	現状・課題を踏まえた対応方向
<p>○ 県立高校の魅力化等</p> <p>県立高校の教育体制の確保や魅力化等に関する要望があった【雫石町、葛巻町、岩手町】</p>  <p>首都圏での葛巻高校山村留学卒業生等交流会</p>	<p style="text-align: right;">地経費</p> <p>各町では、高校と連携し公営塾の開設や寄宿舍・学生寮の整備、地域外からの入学の支援に取り組んでおり、局では、市町が行う高校魅力化等の取組に対し、地域経営推進費（市町村事業）を通じた支援に取り組んでいく</p> <p>また、地域みらい留学などの卒業生は重要な関係人口と捉えられ、当該取組の先進事例である葛巻高校に留学した卒業生に対し、更なるつながりの構築を図る交流を実施し（地域経営推進費小規模支援事業）、将来的な再移住の実現などを目指していく</p>
<p>○ 農業関連</p> <p>(1) 水田政策の見直し</p> <p>水田施策の転換に伴う生産現場への配慮等に係る要望並びに飼料米確保について県の支援、補助金等の対策及び均衡のとれた政策を望む発言があった【滝沢市、雫石町、岩手町、矢巾町】</p> <p>(2) 営農指導体制</p> <p>気候変動に対応できるよう新技術の普及や新規作目への取組に対する助言など、営農指導体制強化の要望があった【滝沢市】</p> <p>(3) 新規就農者支援</p> <p>親元就農支援の充実、新規就農者育成総合対策に係る対象年齢引き上げ等について要望があった【紫波町】</p>	<p>(1) 水田政策の見直し</p> <p>局は、各市町の地域農業再生協議会を通じて、きめ細かに情報を提供していく。また、国の交付金を活用しながら、水田における飼料用米等の生産を支援し、耕畜連携の取組を進めていく</p> <p>(2) 営農指導体制 地経費</p> <p>農業改良普及センターでは、新規作目の導入、D X・G Xなど新たなニーズに対応した農業普及員の育成を進め、営農指導体制の強化に取り組んでいく</p> <p>(3) 新規就農者支援</p> <p>新規就農者育成総合対策の要件緩和について、今後も国に対し要望するとともに、市町・関係団体と連携しながら、新規就農者の早期経営確立に取り組んでいく</p>
<p>○ 滝沢市 I P U イノベーションパークの拡張</p> <p>岩手県立大学の周辺地域における I T 関連産業集積を進めるため、滝沢市 I P U イノベーションパーク運営協議会の主体として、イノベーションパーク拡張に向けた速やかな取組及び産業用地開発の支援策の充実を図るよう要望があった</p> <p>特に、岩手県立大学と盛岡大学の2つの大学の学生の県内定着や雇用の場の創出に一緒に取り組んでいきたい旨の発言があった【滝沢市】</p>	<p style="text-align: right;">地経費</p> <p>局では、令和7年度の地域経営推進費（市町村事業）において、滝沢市の「滝沢市 I C T 産業集積事業」への補助を実施し、同市による I P U イノベーションパーク拡張整備に係る基本計画等の策定を支援しているところ</p> <p>◎「滝沢市 I C T 産業集積事業」（滝沢市）</p> <p>局としては、滝沢市 I P U イノベーションパークが拡張も含めて着実に発展していくよう、引き続き本庁関係部局及び市を含めた関係機関と密接に連携して取り組んでいく</p>